

令和6年度

運営に関する計画

【中間評価】

大阪市立小林小学校

令和6年10月

大阪市立小林小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和3年度の「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より児童に寄り添い、保護者との連携を密にして教育活動に取り組んでいる。「いじめアンケート」を学期ごとに行い、認知したいじめについては、生活指導部会で共通理解を図り、いじめ防止対策委員会を開き、学校を挙げて対応することで、解消することができた。一方で、令和3年度の校内調査の「自分にはよいところがありますか」の項目において、否定的な回答をする児童が3割に及ぶなど自尊感情の向上は十分とは言えない。

体力面では、柔軟運動を普段の授業に取り入れたり、全校でストレッチ週間を設けたりするなど、課題である柔軟性の向上に取り組んできた。取り組みを継続的に実施した結果、令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女ともに全国平均を超える記録を残すことができた。学力面では、小学校学力経年調査の結果から、標準化得点において大きく向上し、目標を達成することができた。一方で、全国学力・学習状況調査において、国語と算数が共に全国平均を下回るなど、基礎学力の定着に課題がある児童が多い。

ICTの活用については、令和3年度より導入された教育情報利用パソコンの効果的な利用について視聴覚係を中心に模索している。本校では、5月の分散登校期間を機に毎日端末を持ち帰るようにし、自宅でオンライン学習をできるようにした。しかし、スクールライフノートなどを全学級で取り組んでいるものの、取り組みの頻度は学年間でばらつきが見られる。今後もICTの活用方法を探り、教職員で共通理解を深め、教職員・児童共に情報活用能力を向上させていく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。

【 R4:80.9% R5:80.1% 】

- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【 R4:61.1% R5:67.2% 】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比平均を、令和3年度平均より5ポイント向上させる。【R3：0.84】 ※0.01を1ポイントとする。
- ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を74%以上にする。
【 R4:63.7% R5:72.1% 】

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。
【R4:80.9% R5:80.1%】
- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。【R4:61.1% R5:67.2%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
【R5:3年0.89 4年0.85 5年0.82】
- ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を73%以上にする。
【R4:63.7% R5:72.1%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

○中期目標の達成に向けた年度目標について

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

○年度目標の達成に向けた取組内容について

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。【R4:80.9% R5:80.1%】</p> <p>② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。【R4:61.1% R5:67.2%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向性2 豊かな心の育成】</p> <p>相手の気持ちを考え、思いやりのある学級づくりを進める。</p> <p>指標 ・ 「いじめ・いのちについて考える日」を年3回実施し、児童がお互いについてよく理解し合い、相手の立場に立って考える機会を設けることで、生活振り返りアンケートの「友だちに何かをしてもらったときには『ありがとう』と言っている」「相手にいやな気持ちにさせたときには『ごめんなさい』と言っている」という項目について、肯定的に回答する児童の割合の平均を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向性2 豊かな心の育成】</p> <p>すすんであいさつができる子どもを育てる。</p> <p>指標 ・ 代表委員会による「あいさつ運動」を年1回以上実施することで、生活振り返りアンケートの「学校で自分から丁寧なあいさつができた。」「おうちの人や見守り隊の方に自分からあいさつができた。」という項目について、肯定的に回答する児童の割合の平均を80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>① いじめに対する感度や意識が高まり、いじめを許さない風潮が学校全体にできあがってきている。一方で、いじめに近い行為を行っている場面がみられるなど、児童の意識と行動に隔たりも見られる。【校内調査 R6:93%】</p> <p>② 指導者が日頃から児童の頑張りを認めたり、クラスの中で認め合ったりできる機会を多く設定している。また、児童が頑張ったこと、褒められたことを想起させてからアンケートを行うことで、自分の頑張りを認めることにつながっている。【校内調査 R6:80.4%】</p>

【取組内容の進捗状況の結果と分析】

- ① 生活振り返りアンケートを実施する際、具体的な場면을思い出しながら振り返ることができている。どちらの項目も目標値は超えているが、トラブルになった時にすぐに謝れない児童が一定数いる。

【『ありがとう』と言っている R6:99.2%】 【『ごめんなさい』と言っている R6:85.1%】

- ② 全体的にあいさつの重要性を理解し、あいさつをしようとする姿は見られる。指標は上回っているが、自分からあいさつをすることが苦手な児童も一定数いるので、より意識して自分から挨拶できるような取り組みをしていく。

【学校で自分から丁寧なあいさつができた R6:95.8%】

【おうちの人や見守り隊の方に自分からあいさつができた R6:96.2%】

年度末への改善点

【年度目標】

- ① 「いじめ・いのちについて考える日」をきっかけに、作文を書いた学級や意見交流をさせた学級など様々な取り組みにつなげることができた。様々な機会をとらえて、いじめについて児童が主体的に考える場をつくり、どんな時でもいじめは許さない姿勢を大人が示していくべきである。また、「何がいじめになるのか」を具体的に児童に伝え、回避するための方法を丁寧に指導していくことが重要である。
- ② 今後も日常の学校生活のあらゆる場面で、どんなささいなことでも肯定的にとらえ、自信をもてるような瞬間をつくっていく。また、学習状況と学力の関わりも深いと考えられるので、授業を通じて「自分でがんばろうとしたこと」を見つけ、継続する力をつける。

【取組内容】

- ① 学校生活の中で、「ありがとう」や「ごめんなさい」の言葉が児童から自然に出るような指導を継続して行う。また、普段の指導の中で、「ありがとう」「ごめんなさい」を伝えることの大切さを伝えていく。
- ② 全校朝会や学級での指導を引き続き継続するとともに、代表委員会が「あいさつ運動」に取り組むことで、自分からあいさつができる児童の育成を図りたい。また、あいさつができていない児童には声をかけ続けていく。

大阪市立小林小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 【R5:3年0.89 4年0.85 5年0.82】</p> <p>② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を73%以上にする。【R4:63.7% R5:72.1%】</p>	B
<p style="text-align: center;">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 算数科の授業づくりや計算力を高める取り組みを行い、算数科における基礎基本の力を身につけることができるようにする。</p> <p>指標 ・ 計算力を高める取り組みをすすめるために、算数科の授業づくりについての研修会を年1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 各学年に応じた家庭学習を進められるように工夫する。</p> <p>指標 ・ 各学年に応じた家庭学習を進められるよう、「宿題の取り組み方」についての研修を年1回以上実施することで、児童アンケートの「学校の宿題をきちんとしていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。【R3:87% R4:89% R5:85.5%】</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体育的行事を充実させ、運動と健康に対する意識を高める。</p> <p>指標 ・ 全学年対象の体育的行事を年間2回以上行う。</p>	B
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>① 12月に小学校学力経年調査を実施予定。</p> <p>② 指標から約10%下回っている。理由として、体育的行事(運動会やなわとび集会、かけ足集会)が後期に集中していることと猛暑の影響で外遊びができていないことが考えられる。実際、昨年度の同時期の同じ学校アンケートとの比較では1%減にとどまっている。【同時期の校内調査 R5:63% R6:62%】</p>	

<p>【取組内容の進捗状況の結果と分析】</p> <p>① 算数科の授業研修会や、教材研究の仕方のメンター研修を行った。算数科の授業導入では、計算タイムを設けて基礎的な計算力を高めている。また、5つの学習段階に分けた授業を行い、学習内容を活用する時間を十分に確保できるようにしている。</p> <p>② 児童の実態に応じて各学級が工夫して取り組んでいる。児童アンケートの結果では、肯定的に回答する児童の割合は95.3%で（昨年度より10%増加）目標を大きく上回った。学校での支援や対応（休み時間や放課後の個別対応、放課後学習）を行うことで、宿題をその日に終わらせることができる児童が増えたと考えられる。宿題の取り組み方の研修会では、児童の実態に応じた取り組み方について交流することができた。【校内調査 R6:95.3%】</p> <p>③ 運動と健康に対する意識を高めるため、6月に「ほけんがんばろう週間」を設け、手洗いの啓発をしたり、毎月1回「けんこうしらべ」を実施したりして、日々の生活習慣の振り返りを行っている。後期には、なわとび集会やかけあし集会を予定している。また、教員が児童と休み時間に運動場で遊ぶなど、行事以外での取り組みも進めている。</p>

年度末への改善点

<p>【年度目標】</p> <p>① 計算タイム等の基礎的な計算力を高める取り組みや、5つの学習段階に分けた授業を継続していく。</p> <p>② 後期に計画している体育的行事の取り組みの中で、教員が児童とともに体を動かし、運動の楽しさを伝えていく。</p> <p>【取組内容】</p> <p>① 4～7月の取り組みを振り返り、児童一人一人の実態に合わせた計算プリントを作成し、実施していく。</p> <p>② 今後も宿題の内容や量を考えていきながら、家庭学習の定着に向けて家庭と学校が連携を図っていく。</p> <p>③ 健康に対する意識を高めるなかで、「運動習慣」「生活リズム」「就寝時刻」は本校の課題である。そのため、今後も家庭に啓発していく。</p>

大阪市立小林小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]</p> <p>② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 情報社会の特性を理解し、適正な活動ができるよう指導する。</p> <p>指標 ・ 全学年、情報モラルについての学習を年1回以上行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日(全教職員が18時までに退勤する日)や学校閉庁日の設定、学校行事や会議の精選・短縮などにより、働き方改革を推進する。</p> <p>指標 ・ ゆとりの日を月に4回設定する。 ・ 学校閉庁日を夏季・冬季休業日期间中に合計5日以上設定する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>① 心の天気の利用により、学習者用端末の活用率は昨年度よりも大幅に上がっている。児童アンケートの「日々の学校生活の中でタブレットを活用している」の項目では、94.4%の児童が肯定的な回答をしている。【7月までの端末活用率平均:76.2%】</p> <p>② 年次有給休暇を5日(目標値の半分)以上取得している教職員の割合は79%と高い水準となっている。長期休業中に学校閉庁日を設けることで、年次有給休暇を取得しやすくなっている。【年次有給休暇5日以上取得:79%】</p> <p>【取組内容の進捗状況の結果と分析】</p> <p>① 低学年からスマートフォンを利用したり、SNSでのトラブルも起きたりしている児童の実態がある。そのため、各学年の実態に応じた情報モラル教育を行っている。</p>	

<p>② 毎週ゆとりの日を設定することができている。学校閉庁日も夏季休業期間と冬季休業期間に合計13日間設定している。また、会議や学校行事の内容を精選することにより、昨年度同時期より教員の時間外勤務時間は約15%減少してきている。</p>	
<p>年度末への改善点</p>	
<p>【年度目標】</p> <p>① 心の天気の入力を行うことで、毎日学習者用端末を使う習慣を身に付けさせる。</p> <p>② 今後も、長期休業等に年次有給休暇を取得しやすい環境を作っていく。また、引き続き業務内容等の精選を行い、ゆとりのある働き方を目指していく。</p> <p>【取組内容】</p> <p>① 引き続き情報モラル教育に取り組んでいくとともに、外部講師を招いて情報モラル教育を実施していく。</p> <p>② 時間外勤務時間は昨年度同時期と比べ15%減少してきているが、大阪市平均より高いので、会議や学校行事の精選をさらに進めて、働き方改革に取り組んでいく。</p>	